かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

福冨士分教会
昭和10年12月３日　設立
平成18年11月19日　移転奉告祭

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう
今一手一つに、一歩一歩！
＊初席者一名以上
＊百万件のにをいがけ

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭
立教184年(2021年)10月24日 執行

立教182年
11・12
月号

秋季大祭講話

この世のすべては喜び・感謝でできている

大教会長様

立教182年笠岡大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと、役員・教会長・よふぼく・信者、多数参拝の中、執り行われた。

大教会長様は神殿講話で、初代が入信した当時の心の置き所に焦点を当てて話しを展開され、日々の信仰生活の中で、先ず、喜ぶことがたすかるポイントだと強調された。要旨は次の通り。

▼在り来りの神ではない

今日は秋の大祭なので、立教の元一日から派生して、初代の思い・行ないに焦点を当てて話します。

先ず、立教当初のことを考えてみると、『稿本教祖伝』に「天理王命」の神名が出てくるのは、立教16年の嘉永6年、こかん様の浪速布教が初めてで、それまでは、元の神・実の神・天の将軍などと呼ばれていました。

その翌年、をびや許しが始まりましたが、それまでの17年間は、人間にでもできる施しなどをされただけで、世界一れつをたすけたいと仰せられながら、神様らしいおたすけは何もしていません。

をびやだすけが始まると、人々は、この道が「をびやの神様」だと思いました。そうして、次々と不思議なたすけを現わすと、たすけてくれる神様だと思うようになりました。

信仰といえば「何かをたすけてくれる神様」という概念・感覚があるでしょうが、親神様が「世界たすけ」と仰る、そのおたすけは、をびやだすけを始めとするいわゆる「不思議なたすけ」ではないということ。――私は、これを分からすために、神様らしいおたすけを現わさなかったのではないか、また、それまで在り来りの神ではないと分からすために、神名をなかなか明かさなかったのではないかと思います。――在り来りの神、身上・事情をたすけるだけの神ではないということ、これをあらためて心におきたい。

▼入信の動機を再確認する

私たちの初代が入信した動機について考えてみると、一つには、身上・事情などをたすけられたこと。また一つには、笠岡の初代のように、神様の話を聞いて、「ほんになるほど」と教えに感銘したことです。

命の無いところをたすけられたというのなら分かりますが、それでも、世間的に考えれば、医者が良かった、薬が良く効いたとしても、医者には恩報じはしません。事情をたすけてもらったとしても、弁護士にも恩報じはしません。

しかし、たすけられて、あるいは、神様の話を聞いて、なぜこの道を信仰しようと思ったのか。

身上・事情をたすけられた人も、笠岡の初代も、共通して、神様の話を聞いています。――それは、大きく分けて、元の理の話、十全のご守護、かしもの・かりものの話、八つのほこりの4つです。――で、これら話を聞いて、「ほんになるほど」と思えるでしょうか、今も昔も。

ただ、当時の人は、元の理の話を聞いたときに、「ほんになるほど」と分かった。現代人からすれば、単に架空の話でしょうが、当時の人にとってみれば、大竜は水の神様、大蛇は火の神様、シャチと言えば金の鯱鉾、城が立つことの守り神なので、シャチ＝立つということがよく分かった。話しがしっくりきたので意味が良く分かり、「ほんになるほど」と分かった。それに合わせて十全の守護を聞いたときにも「ほんになるほど」と、腹に治まったのでしょう。

▼成ってくることすべてが親神様のご守護だということ

何が「ほんになるほど」かと言えば、「ほんになるほど、この世はすべて神様のご守護の世界だ」と、腹に治まった。

それまでの神は別の世界にいて、私たち人間は神の下僕（しもべ）であって、神の言うことを聞かねば何をされるか分からない、滅ぼされるかも知れない、恐い存在というイメージ。身上・事情は、神の言うことを聞かない罰（バチ）というイメージしかなかった。

しかし、これまでの神とは違って、すべてが親神様のご守護の世界。成ってくるのが天の理。身上・事情も神様のご守護。そして、そのご守護が、たすけてやろうという親心の現われであると同時に、大難は小難、小難は無難にと常に親心を掛けて導かれる。私たちが陽気ぐらしができるようにと常

にご守護くださっている親心のたすけの姿だ。――と、ほんになるほどと腹に治まった。これが、初代の人たちの心底の心だったのではないでしょうか。

そうしてお道を通るようになった初代の人たちが、信仰するようになってから身上・事情がなくなったわけではなく、信仰していても、身上・事情が起こりました。

普通なら、一生懸命、信仰していて、なぜ、こんな身上・事情になるのかと、文句を言いたくなりますが、初代の人は逆でした。信仰のおかげで、親心を掛けられ、身上を通してたんのうの道を、事情を通していんねん納消の道を通れることを喜んだのです。

力を入れて話される大教会長様

今生だけでなく、前生から来生まで、ずっと、親神様のご守護の世界であり、その中で、すべてを大難は小難に代えていただいていることが、初代の人たちには分かったのでしょう。

もちろん、すっきり納まったのではなく、いろんな苦しみや迷いがあったでしょうが、親神様のご守護の世界だと、一貫して心に治まっていたからこそ、その中でも、神一条に通ることができたのではないでしょうか。

にをいがけに出ても、バカにされるだけで、何の役にも立たないと、よく言われます。そんなとき、初代ならどう思っただろうかと考えてみると、バカにされたことを通して、たんのうといんねん納消の道を歩むことができ、ますます喜び勇まれたのではないか。

神様のご守護の世界だということが心に治まって、いんねん納消の道、そして、ご恩報じの道を歩んだのだと思います。親心を掛けてご守護くださっている、このご恩に報いざるを得ないような思いだったのでしょう。

今までは、喜び・感謝もなく「当り前」で生きていたが、すべてが神様のご守護のおかげだと知り、重ねた恩を返さずにはおれなくなった。これが初代の方々の思いではないかと思います。

▼「先ず、喜び・感謝」の心から

私は、3年前に倒れましたが、親神様・教祖の親心いっぱいの不思議なご守護を戴きました。代々積み重ねた真実の積み重ねのおかげです。

これも、すっきり良くなった後ではなく、まだ集中治療室の中で、まったく体が動かない状態の中でしたが、小難に導いてくださった親神様のご守護がすっきり心に治まり、何とも言えない喜び・感謝の気持ちが湧き起こり、心の底から喜べ、心の中で手を合わせました。

それからは、うれしいありがたいばかりで、思わずも早く退院できましたが、それは、そこに喜びがあったからだと気付きました。

身上も、神様が大難を小難に無難にと導かれる姿とするなら、これも神様のお働きと、先ず喜ぶことが大事だと気付いた。――初代の人たちは、先ず、喜んだ。そこにたすかる元があったのではないでしょうか。

先ず喜ぼう。喜んでから思案したらいい。そして、必らず、ご恩報じをすること。これこそが、たすかる大きなポイントではないでしょうか。

「人間が陽気ぐらしをする状を見て共に楽しみたい」ということも、「一れつのこどもが、うれしい、ありがたい、結構だという姿を、共に見たいといって、私たち人間を造られた」と考えてみると、身上・事情を喜び・感謝の元立てと捉えれば、正しく親神様のお心に添うことになり、大きくたすけられる理作りになるのではないかと思います。

今日は、初代に焦点を当てて、お話ししましたが、それは、人間創造のときから何も変わってはいません。

変わったのは、私たちの心で、喜びが足らなくなったから、身上や事情（天災）に苦しまなければならなくなっています。

ですから、これからは、日々、喜び・感謝の心でご恩報じの道を歩むと同時に、その思いを一人でも多くの人に写していくことが私たちの使命だと心において、成人の歩みを進めていきましょう。

大きなことはできないかも知れません。私たちにできることは、ほんのわずかなことかも知れません。しかし、ほんのわずかなことでも、一人ひとりができる喜び・感謝、ご恩報じの道を歩んだなら、それが、だんだん大きな力になって、より大きなおたすけに繋がってくるのではないかと思います。

青年会総会
あらきとうりょう入門塾 開催
10・27 本部中庭・詰所

青年会

10月27日、本部中庭で第95回青年会総会が開催され、国内外から青年会員ら約1万6千人が参集。笠岡分会(上原明勇委員長)からも、全ブロックの会員が参加した。

中山大亮青年会長は告辞の中で、会員一人一人が、徳分を生かしたおたすけに積極的に実践していくよう、述べられた。

総会後には、詰所で「あらきとうりょう入門塾」を開催。上原委員長のあいさつに続いて、チーム対抗のレクリエーションが行われた。参加者らは1日を通して、会員としてのを意識を高めると共に、同じ笠岡につながる者同士の、絆を深めた。

本部神殿前に集う笠岡分会の会員たち

親睦を深めたあらきとうりょう入門塾

海外伝道講習会 開催
11月月次祭

海外部

海外部(上原志郎部長)は11月21日、本部員・高井久太郎先生を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催。役員・部内教会長・よふぼく・信者ら多数が受講した。講話要旨は次の通り。

今から55年前、私はアフリカの地コンゴという国で、妹と共に双子で生まれました。コンゴ布教伝道の始まりは、中山正善二代真柱様が蒔かれた一粒の種より始まります。ご移動中の飛行機のトラブルでコンゴの小さな空港〝マヤマヤ空港〟へ緊急着陸し、その際に利用されたタクシーの運転手ノソンガ・アルフォンスという若者に、にをいをお掛けになりました。その後、私の父猶久が単身で布教師として送られることになりました。

私の家の初代は高井猶吉と言い、教祖ご在世当時よりお屋敷に住み込み、そのお膝元で勤めていた先人の一人です。しかし初代出直しの後は、事情や身上を見せられる日々が代を重ねて続きました。子なしのいんねんに始まり、早死に、家督争いと、外面は良くても家内はぐちゃぐちゃでした。ですから私の父も幼少より内々の事情に苦しみ、泣きながら過ごしていたようです。その状況から何とか抜け出したいという一念から、当時二代真柱様が力を注がれていたアメリカ布教の片隅に置いてもらい真実を受け取っていただきたいと考えて、アルバイトをしながら語学を学び、6年間の理作りに精を出していたようです。ある日、父が意を決して「アメリカ布教にお使いいただきたい！」と二代真柱様に直談判したところ、「メとフの違いやけど、アフリカへ行きなさい。ノソンガという青年を頼ったらよい。」とのお返事を頂戴しました。

アフリカでの生活は、父の記録に「毎晩おふでさきを抱きしめて寝ていた」とあるように、大きな不安や孤独感、恐怖感を抱えながらのスタートだったと想像します。生活の不安とは裏腹に、当時のアフリカは医療がまだ発達しておらず、病やけがに苦しむ人々はそこら中にあふれていたので、おさづけの取次は探し回らなくても向こうからやって来るといった状況でした。しかも取り次げば取り次いだだけ皆助かる。ですから、当時借りて住んでいた掘っ立て小屋の前には毎朝行列ができたそうです。しかし言葉の壁があり、助かりの理合い、報恩の方法や手段、心遣いや生き方といった大切なことを伝えることができず、次第に勇めなくなります。そうした時期に、ご本部よ

り一時帰国の声がかかります。おぢばに帰ると、結婚の段取りが出来ていて私の母になる人が待っていました。今度は夫婦で再チャレンジの運びになりました。母も別段言葉を話せるわけでもなかったのですが、夫婦で布教生活を始めると、一人また一人と信者と呼べるような若者が出てきたのです。後に「あれは女房のおかげだ」とよく父が話していましたが、やはりこれがつなぎの徳分だと思います。

お話しくだされる髙井先生

間もなくして母は身ごもりましたが妊娠中に病気で倒れ、母の命を優先するために臨月を待たずして帝王切開で取り出されました。医療技術はもとより物質面においても不十分な中での大手術でしたが、産声一つあげないわずか800ｇの私たちに医者は蘇生を試みるどころか、薄汚れた布切れに包み込んで横の小さな空き缶の中にゴミのごとく放置しました。母に付き添っていた父は、泣きながら私たちをボロ布から出して背中や足の裏を何度も叩いてくれたそうです。やがて私たちは奇跡的に小さな産声をあげることができました。しかし哺乳瓶でミルクを飲まそうにも、吸う力どころか口が無反応。そこで父親は食器洗い用のスポンジにミルクを浸して、それを私たちの口の中に絞り落とすようにして体内に入れてくれたのです。それから三日程たって、消え入りそうな命に今度は、大人でも命取りになる伝染病のマラリアが襲いかかりました。小さな体は火の如く熱くなり、体力の低下と共に泣く力さえ失ってしまいました。異国の地で初めてお与えいただいた子を、その手に抱かず母乳さえ与えることができずに失ってしまうという現実に立たされた親の悲しみは計り知れないものだったでしょう。

父は、もう助からないだろうとおさづけを取り次ぐどころか神様に手を合わせる気力さえ失ったそうです。とぼとぼと布教所に戻るとその光景を見て父の萎えた気持ちは一変しました。コンゴでできた初めての若い信者さんたちが、教理も何もわからないままに見よう見まねで必死にお願いのおつとめを勤める姿がそこにありました。手振りも地歌も無茶苦茶、しかし真っ暗闇の中、ロウソクの明かりの下で汗だくになって一身に勤める彼らの姿に鳥肌が立ったと言います。これこそが真のおつとめだと感じたそうです。その姿は父に信仰心を取り戻させ、その後の布教伝道に拍車がかかったようです。

当然ながら医者も誰もかもが私たちの回復を奇跡だと言いました。母と共にその腕に抱かれて布教所に戻ると、信者さんの一人が母の手から私たち二人を取り上げ頭上に掲げるや、道行く人々に向かって「OYAGAMI-EST-LA! OYAGAMI-EST-LA!」と叫んだそうです。これは「親神は実在する」、即ちこれが天理教の力だという意味です。これが、彼らが、彼らの地で、彼らの言葉で行った初めてのにをいがけです。当時物珍しさに寄って来る者がいくらかはいても、信仰を純粋に求めてくる人たちは僅かでした。その中にあって、私たちのご守護をだれよりも喜び、感動して道行く人々に「OYAGAMI-EST-LA!」と叫んだ方々。その人たちがその後芯となって、コンゴブラザビル教会の土台となったのです。こうして小さな掘っ立て小屋で始まったコンゴ布教は、信仰の炎を保ちながら二度三度の内戦の苦難も乗り越えて、現在200人の信者を抱える立派な教会となっています。

この話になると、父は晩年次のような話も加えていました。私たちお道の者が信仰生活の中で決して忘れてはいけないこと、勘違いしてはいけないことがある。このお道は決して上が下を助ける道ではない。むしろ、下の者に助けられる道なんだと。もちろんこれは父の持論でありますが、立場や力、物やお金がある人が、ない人を助ける道だと思ったら大間違いだということです。導いたり教えたりと、持っている者が持っていない者に手を差し伸べるのは、むしろ当たり前の姿です。しかしその上下関係はどうして生まれてくるのか。会長も信者を選べないし、信者もこの教会につながろうと思って信者になるわけでもない。皆繋がるべくして繋がる、これを結びつけるのは

親神様ただお一人です。親は子の姿の中にわが目に映らぬ癖性分を見せてもらい、わが恩人、我が宝だと思って育てさせていただく。その過程があって親自身の魂が救けられていくのです。会長は信者の姿の中に我がいんねんを悟り、どのような姿を見ても、我が前世のご恩返しだと喜んで丹青の役を果たす。親神様の方にしてみれば、繋ぎ合わせた甲斐があったとなります。親神様のお考えにある〝救け〟は、どこまでも両者を共に救い上げたいということであり、一方だけを救けるという道はどこにもないのです。この点を道の者が勘違いをする。長く通れば通るほど「俺が救けた、育てた」となる。逆に思うようにならなかったら「あれだけ真実尽くしてやったのに、こいつは親不孝者や」となります。親神様の理屈がおさまっていたら「私の真実が足りなかった、申し訳ない」、或いは「私のような者でも親の役をさせていただけた」となります。

父は裸一貫で布教に出たと言いましたが、実は言語以外は何でも持っている状態でアフリカに行っているのです。尊きおさづけの理もある、おふでさきやみかぐらうたの意味も分かる。教祖の親心も知っている。しかしその何でも持っているはずの者が肝心要のところで持っていない者に救われたのです。みかぐらうたの意味どころか教祖の名前さえ知らない現地の若者たちに、逆に救けられたのです。救けるはずの者と救けられる者とが逆転した。親神様から「立場を誤解するな」と布教の出だしに大きなげんこつを貰ったのだと、父は常々言っていました。言葉では〝おたすけ人〟と言われますが、おたすけに回るというのはこちらが〝救けられに回る〟ということです。「人救けて我が身救かる」とのお言葉に照らして言うならば、お道の人は〝たすけられ人〟というほうが正しいかもしれませんね。

現在のコンゴブラザビル教会は本当に夢のような姿になっていますが、ここに至るまでには一本の細い糸でかろうじて繋がっているという厳しい道中もあったのです。その中で信仰を今日まで伝え、布教、たんせいにご尽力くださった方々が共通して常に持ち続けたもの。それが冒頭の二代真柱様の蒔かれた最初の一粒の種です。真柱様が名前も知らないタクシー運転手の若者にお取りになった態度です。どこまでも優し気な笑顔で最大限の敬意をもって接せられたそうです。真柱様が「この運転手さんには言い値通りの額を払って差し上げよ」と仰せられると、ノソンガ氏はそれを辞退しますが、更にホテルでの食事に彼を招かれたのです。当時は、白い肌の者と黒い肌の者が同じ目線で会話をする、一緒に肩を並べて歩く、食事に同席するといったことは全く受け入れられなかった時代でした。こうした時代にあって、真柱様は〝女松男松の隔てなし〟、また〝いちれつ兄弟〟の御教えそのままに実行なされたのです。「この方からはお金はいただけません」とノソンガ氏に言わしめたのは、人種も立場も取り払って、お互いに親神様からこの世に生を授かった月日の子供、兄弟同士であるという真柱様から溢れ出る真の〝お道の人〟たる空気を感じ取ってのことだと思うのです。真柱様は晩年、「人から〝天理教とは？〟と尋ねられたら、〝私が天理教です〟と言えるようになりたいものやなあ」と仰せられたと聞きます。

コンゴ伝道の道は、国や言葉や文化に違いはあってもこの地球上で〝一緒に仲良く暮らしたい〟との純真な気持ちから始まりました。これがコンゴの地に真柱様が自らお蒔きくだされた〝一粒の種〟であり、誠の心というお道の種です。皆様が繋がっている教会も布教所も皆、誰かの蒔いた一粒の真実の種に始まっています。そこから更に広く根が張り良き芽が吹き花が咲くように、その根にもしっかり目を向けて、代々の親々に「苦労して蒔いた甲斐があったな」と喜んでもらえるように、勇んでこの道をお通り下さいますよう申し上げ、本日の講話を終えさせていただきます。

「別席ひのきしん団参」実施

11月23日　布教部

11月23日、布教部（田中隆之部長）は別席伏せ込みひのきしん団参を実施した。笠岡大教会創立130周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭に向けての三年千日、一年目のこの団参に大教会長様を始め、502人（初席8人・中席21人・初参拝10人）がおぢばに集結した。

色付くイチョウ並木に囲まれた神殿で午後零時半から吉川万寿彦本部員の

拍子木のもとおつとめが勤められた。おつとめ終了後、大教会長様は「この三年千日、勇み心を持って頑張りましょう」とあいさつされた。引き続き、別席者は別席場に向かい、ひのきしん者は各教会ごとに教祖殿・祖霊殿を参拝後、西礼拝場まで廻廊ひのきしんを行った。

この日のおぢばは穏やかな秋晴れで初参拝者や初席、中席の人も数多く帰参した。日頃本部に参拝する機会に恵まれない人たちも、一年に一度の行事とあって、教会を超えて久しぶりの再会に顔をほころばせ、積もる話に花の咲く光景があちこちでみられた。

穏やかな秋晴れの下、東礼拝場外で

おぢばへの伏せ込みとともに、笠岡につながる教友の良き交流の場ともなる別席伏せ込みひのきしん団参は今年も賑やかに行われた。次回は、立教183年（令和2年）10月25日（日）に実施の予定です。今後も布教部を中心に大教会挙げて活気ある行事になるよう計画していく。

笠岡分会総会 父親講座 開催

12・1 大教会

青年会

三曲のみ女子青年のヘルプ

青年会笠岡分会（上原明勇委員長）は12月1日、大教会で総会を開催した。この日は、親里管内の学生、勤務者を始め、全ブロックより91人（うち青年会員73人）が参集した。

午前9時半、おつとめ衣に身を包んだ会員が、整然と着座する中、厳かに祭儀式が執り行われた。その後、おつとめまなびとなり、ブロック毎に担当の下りが勤められ、殿内には、力強く唱和する会員の声が響いた。

おつとめまなび後、式典の部となり、まず中山大亮青年会長様の御告辞が代読された。その中で、「10年後、世界の至る所で、その国や地域の社会問題の解決に力を注ぎ、そこで動くあらきとうりよう一人ひとりが教祖の教えを伝え、人の心をたすけている」というビジョンの達成に向かって、何をするべきかを考えながら活動を進める事などを促された。

御告辞を拝聴する会員たち

続いて、大教会長様の祝辞、上原委員長の挨拶があり、会員らは熱心に聴き入っていた。最後に、今後の躍進を誓い、あらきとうりよう指針を唱和し、青年会会歌を声高らかに斉唱した。

また、午後からは青年会主催の「父親講座」が開催された。これは、教会長子弟育成委員会から、青年会が引き継いだ行事で、3回目となる今回は、佐藤真孝芳井分教会長が講師を勤め

ほぼ全員が引き続き参加しての父親講座

た。

スクールカウンセラーなどを勤める佐藤氏は、現代の子供たちを取り巻く環境や、問題を述べた上で、親となる夫婦のコミュニケーションの大切さなどを、自身の体験談を交えて、分かりやすく話した。

会場には、夫婦での参加者の姿も見られ、陽気ぐらしに根付いた家庭のあり方を学ぶ場となった。

広島平和公園 にをいがけ 外国語パンフレット配布 海外部

本年2回目の平和公園訪問は9言語の天理教パンフレットを用意して広島へ向かいました。今回は笠岡市近辺の小学校の学芸会の振り替え休日と重なり、大人4人と小学生7人が参加し、英語勉強を兼ねてのにをいがけとなりました。平和公園の中での世界平和を祈念してのよろづよ八首のおてふりの後、2グループに分かれ、子供たちが積極的に「ハロー」と来日している沢山の外国人旅行者に声をかけ、大人は世界平和の大切さやお道の話をしパンフレットを配りました。

イギリス、プエルトリコ、オランダ、メキシコ、フランス、スイス、オーストラリア、スペイン、フィリピン、チリ、香港(中国)、イタリア、ドイツ、マレーシアの14か国の人たち27グループに声をかけ、それぞれの国の言語のパンフレットか英語パンフレットを手渡しました。英語を積極的に話し、にをいがけに参加した子供達の未来や、外国人旅行者のグループのみならず、このパンフレットを持ち帰ったそれぞれの国の人達にどう読まれていくのか先の楽しみ一杯の1日でした。

（海外部長　上原志郎）

原爆資料館の前で
オーストラリアから来た旅行者と

談話室

さんさい心

稲富士分教会　須毛田英尋

火の玉は墓地、池、沼地などで燃える火の魂ですが私が3才の時見た火の玉は、市街地の2階から見えた物体で、60年以上経った今でも心地よい気持ちにさせてくれている飛行物体だった。昭和30年テレビのない我家で子供達は夕食を済ますと2階で寝支度をするしかなかった。或る秋の夕暮れに7時過ぎだったと思う。2階の窓からぼんやり外を眺めているとおよそ50メートル先目の高さを左手からその物体が現れ一直線に右方向に水平飛行し過ぎ去った。その姿はおたまじゃくしの様な色は黄金色に光り、縦に身体をゆらしながら移動したのだった。大変な驚きだが怖いことはなく愉快だった。60数年経った今あることに気付いた。3才の時に見たのでさんさいこころにこだわろうとの神様の思いだったのでは思うのは思いすぎだろうか。現代人の不幸の原因を思う。昔は貧乏はしても心の貧乏が、貧乏に暮らす心得を教えていた。しかし今は豊かさが当たり前になり、豊かさが身に付き過ぎ、貧乏を嫌い貧乏を避けるようになった。これを心の貧乏というのではないだろうか。これに気付いていない現代人の不幸はここにありと思う。同じ事が齢を取る事でも言える。齢を取る即ち長生きはいい事だが、心が齢を取るのはいけない。超高齢社会に突入し人々が一番心掛けないといけない事だ。その決め手はさんさい心にいつも帰る事、

さんさい心とは自分の能力とか、容姿を全く思わない純粋無垢な自分が存在するなと思うだけの心。齢を重ねてももうこれで良いわと隠居の心にならない心。この心を定めれば　四ッよのなか、いい世の中になり、いい年寄りが多いのでいい世の中になり、五ッりをふく。神が喜ぶと解せる。天保11年生まれの渋沢栄一は昭和6年92才で没する迄、一年たりと隠居はしておらず、最期の齢でさえ日本女子大学長に就任している。わが国で平均寿命調査が始まった明治24年男子は42・8歳というから92歳は今で言えば何歳の感じなんだろう。火の玉は人魂とも言い、あの日見た黄金色に光りかわいい一筋心に進むものだと教えて下さったと思わせて頂く60数年経った秋を迎えた今日この頃である。

立教百八十二年 秋季大祭 祭典役割表

祭主	扈者		講話
大教会長様	中村剛	門脇元教	大教会長様

賛者		指図方	十二月講話
横山逸郎	森本忠善	上原明勇	佐藤道孝

役割／区分	坐り勤	前半	後半
地方	吉岡壽	門脇元教	谷内伸自
	上原志郎	森本忠善	山田敏教
	渡邉隆夫	内海史郎	上原繁次
おつとめをどり	大教会長様	中村剛	田中隆之
	上原明勇	中島誠治	岡﨑真一
	上原繁道	中村道徳	上原浩
	大教会奥様	門脇加津	谷内美知子
	田中ますみ	中村初美	岡﨑和美
	虫明好美	室悦子	吉岡八恵
笛	今川昌彦	淺野明教	佐藤真孝
ちゃんぽん	上原繁次	高木昭祥	虫明立生
拍子木	佐藤道孝	横山逸郎	田林久嗣
太鼓	三島渉	武内清明	岡田誠
すりがね	杉原博之	今川昌彦	渡邉隆夫
小鼓	山野弘実	赤木素志	三代温生
三味線	武内正美	岡﨑豊子	田中つかさ
琴	佐藤香苗	三島照美	横山小智榮
胡弓	上原順子	笹尾一美	山野なつ

立教百八十二年 十一月月次祭 祭典役割表

祭主	扈者		講話
大教会長様	三島渉	中村道徳	海外伝道講習会

賛者		指図方	春季大祭講話
山田敏教	内海史郎	吉岡壽	島村廣義先生

役割／区分	坐り勤	前半	後半
地方	佐藤道孝	今川昌彦	上原浩
	上原志郎	横山逸郎	吉岡誠一郎
	上原繁次	虫明立生	岡田誠
おつとめをどり	大教会長様	田中隆之	門脇元教
	上原明勇	中島誠治	杉原博之
	上原繁道	森本忠善	山野弘実
	大教会奥様	岡﨑豊子	門脇加津
	田中ますみ	高木孝子	山野なつ
	虫明好美	横山小智榮	田中つかさ
笛	中村道徳	武内清明	内海史郎
ちゃんぽん	中村剛	赤木素志	淺野明教
拍子木	吉岡壽	三島渉	岡﨑真一
太鼓	岡﨑真一	山田敏教	田林久嗣
すりがね	谷内伸自	高木昭祥	三代温生
小鼓	上原浩	淺野明教	上原繁次
三味線	佐藤香苗	笹尾一美	室悦子
琴	上原順子	谷内美知子	三島照美
胡弓	内海安子	中村初美	吉岡八恵

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会／月	婦人会	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会
1	28 婦人会創立の日		27 年頭幹部会	
2	3 直轄委員部長・委員研修会			5～7 管内高校 受験世話取り 21 学生層育成者講習会 27~1/1 管内高校 受験世話取り
3			21 テッチャンシアター（親子参拝 推進） 30~1 笠岡むつみ鼓笛隊 合宿 1 笠岡団おつとめまなび総会	3～9 学修 大学の部 10~12 学修 高校卒業生コース 28 春の学生おぢばがえり 直属アワー
4	18 よろこびのパレード 19 本部 婦人会 創立110周年記念 第102回 総会			おぢば管内新入生歓迎会
5			21 縦の伝道講習会	
6		28 ひのきしん団参	21 テッチャンシアター（親子参拝 推進）	
7			21 テッチャンシアター（親子参拝 推進）	
8		3～24 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊入隊	21 テッチャンシアター（親子参拝 推進） 21~23 サマーキャンプ	9~15 学修 高校の部
9	23 委員部長後継者講習会		21 テッチャンシアター（親子参拝 推進）	
10	31 ひまわりの会の集い	27 本部青年会総会 父親講座（詰所開催）		
11	7・8 こかん様に続く会		21 テッチャンシアター（親子参拝 推進） 22 わかぎのつどい	
12				
備考	・毎月2日 ひまわり会 例会 1月・8月は なし ・毎月3日 婦人会 例会 1月・8月は なし ・毎月20日 女子青年 伏せ込みひのきしん	◎有志ひのきしん隊（毎月）	◎教会おとまり会の実施 ◎テッチャンシアター（親子参拝）3・6・7・8・9・11月の21日 祭典後	

祭典講話（案）

1月	世話人先生
2月	㊫学生層育成者講習会
3月	中村　剛
4月	谷内伸自
5月	山野弘実
6月	㊧縦の伝道講習会
7月	上原明勇
8月	上原志郎
9月	横山逸郎
10月	大教会長様
11月	㊥海外伝道講習会
12月	吉岡　壽

◎よふぼく勉強会　毎月21日 午後1:30～2:00（但し、大祭月、祭典講話が外部講師の月を除く）

立教１８３年(令和２年/2020年)

部会 / 月	全体行事 その他	ひのきしん	布教部	海外部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	5~15 本部食堂(東ブロック)		
2	2~15 部内巡教 25・26 教会長講習会(笠岡詰所)	16~28 本部食堂(高屋ブロック)		
3	2~15 部内巡教 28・29 修養科修了講習会	講堂中２階・講堂舞台裏倉庫の片付け、処分 27~29 合宿詰所受入	21 行列のできる勉強会	広島公園にをいがけ(英文パンフレット配布)
4		17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	5 さくら祭(アフリカ孤児支援バザー)
5	4~18 直轄教会定期巡教 5 大教会長杯親睦スポーツ大会 **29 明勇様婚儀**	~６月 庭木伐採・剪定 1~15 本部食堂(福山ブロック)		
6	28・29 修養科修了講習会	夏季 草刈り		
7	26~2 こどもおぢばがえり	16~31 本部食堂(上府ブロック) 26~2 こどもおぢばがえり詰所受入 前半：7/26昼～30昼 後半：7/30昼～8/2昼		
8				5・6 英語講習会
9	28・29 修養科修了講習会		1~30 布教推進強調月間 21 行列のできる勉強会 23 笠岡にをいがけ推進日 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	**4 若人のつどい** 4~18 直轄教会秋季大祭参拝 **25 別席ひのきしん団参** 30・31 雅楽講習会	庭木剪定 1~15 本部食堂(島根ブロック) 25~26 秋季大祭詰所受入	25 おかえり講話	
11				広島公園にをいがけ(英文パンフレット配布) 21 海外伝道講習会(月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 28 修養科修了講習会	22 年末大掃除 27 詰所餅搗		
備考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭当日朝	註：ブロックの区分けは 東：岡山県以東の直轄教会とその部内教会 西：広島県以西の直轄教会とその部内教会 上府：上下、府中市		◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

◎部長会議・役員会議・役員並びに直轄教会長会議：2月は末日、4・5・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一　慎んで申し上げます
親神様には人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと思召され　道具を寄せ八千八度の生まれ変わりを経て人間とこの世をお創造下さいました　爾来変わらぬ親心のままに　心の自由と天然自然の御守護を下さりお育て下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます　しかるに心の使い方を誤り身上や事情で苦しむだけではなく　当たり前の結構さに気付かず喜び感謝の心さえも失っている姿をご覧になるや　天保九年十月教祖を社としてこの世の表に現れ「世界一列を助けたい」との親心を明かし　教祖のひながたを通して此の世界だすけの道をお付け下さいました　以来身上や事情によりお引き寄せ頂いた先達及び私共は　「かしものかりもの」の喜び感謝の心一杯にご恩報じを念じて　日々はたすけ一条のご用の上に勤め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は　おぢばの理を戴いて立教の元一日を祈念して秋の大祭を執り行う日柄でございますので　只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心を一つに睦び合わせて　勇み心一杯に坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます　御前には実りの秋にお腹や心を満たして喜び一杯の道の子供達が　今日の日を楽しみに寄り集い共に声高らかにお歌を唱和して　日頃のご高恩に言改めて御礼申し上げ　尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて今月は　立教の元一日に明かされた「世界一列を助けたい」との親心を知ると共に　我が身我が家のいんねんを悟り　因縁納消の為御恩報じ一筋にたすけ一条に邁進された信仰初代の人達が　信仰生活をどんな思いでどのように行ってきたかを尋ね　それを間違いなく受け継ぎ実行する事をお誓い申し上げるのも秋の大祭の意義と直轄教会の大祭参拝をさせて頂きました　代を重ねての信仰に有りがちな惰性に流されること無く真摯に初代の信仰を踏襲すべく　日々の思いや行動　時々の行事が全て成人の歩みになるようたすけ一条に邁進する所存でございます
何卒親神様には　「人助けて我が身助かる」との教えを胸に　陽気ぐらしを目指してたすけの輪が広がるよう精一杯に邁進する皆の真実をお受け取り下さいまして　万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り　親神様の御守護の世界と受け止めご恩報じをする人が弥増して　助け合いが次々と伸び広がり　陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

上原明勇様　縁談調う

大教会長様長男・上原明勇様は、11月5日、世話人・島村廣義先生仲立ちの元、本部員・中山慶明先生第四女・愛美（よしみ）様に結納を納められました。
結婚式は明年5月29日、本部にて挙行されます。

教会おとまり会の報告

坪生隊

実施日　元年8月8日・9日
参加者数　少年会員9　育成会員6　計15
プログラム　おつとめ、おはなし、ひのきしん、ゲーム、ごはん作り、花火、プール
感想・反省　今年も無事つとめさせて頂きました。ありがとうございました。スタートするまでわかりませんでしたが、昨年来てくれた子が友達をさそって来てくれありがたかったです。

稲讃隊

実施日　元年8月11日・12日
参加者数　少年会員5　育成会員8　計13
プログラム　ごはん作り、海水浴

久松隊

実施日　元年8月　12日・13日
参加者数　少年会員12　育成会員12　計24
プログラム　おつとめ、ひのきしん、バーベキュー、かき氷、花火

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様には一列の子供が可愛いの親心から 絶え間なく御守護下されており 加えて私達の本来の目的である陽気ぐらしへとお導き下さっております 取り分け今は山の木々の紅葉を目で楽しみ 夏の暑さ豪雨を乗り切った作物を口で楽しむ等 親神様からの借り物である身体全体で味わい 我がのものである心一つの理で楽しませて頂いており 又旬々にお見せ頂く身上事情に親心を感じ成人させて頂けます事は誠に有難く勿体ない極みと喜ばせて頂いております 私共は日々 喜び感謝の心一杯に御礼を申し上げると共に ご恩報じを念じて 「蒔いたる種はみな生える」との道理と 「人助けて我が身助かる」の真実を伝えるべく たすけ一条の歩みを進めさせて頂いております その中にも今日の吉日は たすけの元立てたるおつとめを勤める日柄に当たりますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬたすけ一筋の親心にお縋りする皆の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて本日は祭典講話に替えて海外伝道講習会をさせて頂きます 「世界一列を助ける為に天下った」との思召に少しでも応えたいと 海外でのおたすけの実情を知った上で海外伝道に関心を持つと共に 国内でのおたすけ活動のより一層の充実を図る所存でございます 又目前に迫りました別席ひのきしん団参に向け気持ちも高まっております 一人でも多くの人に声掛けし共におぢばに伏せ込ませて頂き「良き種まき」をさせて頂く所存でございます 何卒事故怪我も無く喜び一杯の団参になりますようお連れ通りの程をお願い申し上げます 加えて十二月一日には青年会総会を開催させて頂きます 青年会員の勇んだ姿をご覧頂きたいと存じます 更には又 年末に近づき年頭の心定めの完遂を目指すのはもちろん 来年に より成人の歩みを早める為にも 今年悔いのないよう務めきらせて頂く所存でございます
何卒親神様には 情報過多によってますく混迷を深めて行く世の中にあって 流される事無く親孝心一筋にたすけ一条に邁進する 皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 真実の親を知りご恩報じをする人が弥増しまして 欲を忘れて助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

芦品隊

実施日 元年8月12日・13日
参加者数 少年会員15 育成会員6 計21
プログラム ひのきしん、月次祭参拝

芦加茂隊

実施日 元年8月13日・14日
参加者数 少年会員2 育成会員3 計5
プログラム おつとめ、ひのきしん、工作、おやつ、お墓まいり、夏まつり参加
感想・反省 子供達が大きくなるとなかなかおとまりをしなくなります。

安那隊

実施日 元年8月15日・16日
参加者数 少年会員10 育成会員7 計17
プログラム おつとめ、おはなし、鳴り物練習、大お好み焼大会
感想 こどもおぢばがえりの反省会もしました。良かったこと、おもしろくなかったこと、いろいろありましたが、また来年も行きたいとのことでした。育成会員はもうしんどいです。

教会こども会の報告

芦加茂隊

実施日　元年8月6日
参加者数　少年会員5 育成会員15 計20
プログラム　おつとめ、鳴り物、ひのきしん、おやつ
感想・反省　祭典日に子供達が参拝してくれてよかったです。

大恵山隊

実施日　元年8月12日
参加者数　少年会員4 育成会員6 計10
プログラム　おつとめ、鳴り物、ゲーム、おやつ
感想・反省　8月の月次祭後教会こども会を行いました。月次祭も交替でつとめてくれました。

▼真金隊

実施日　元年8月19日
参加者数　少年会員1 育成会員4 計5
プログラム　おはなし

大教会だより

＝教会指令＝

◎任命願

西村分教会
＊前任　藤本イツヱ
＊新任　藤本晴司

藤本晴司氏

☆奉告祭　立教182年11月17日
立教182年10月26日承認

高丸分教会
＊前任　谷本里喜男
＊新任　谷本章

谷本章氏

☆奉告祭　立教182年12月1日
立教182年11月26日承認

◎教人資格講習会（前期）修了者
立教182年12月1日終講
髙屋武内ゆり

◎教人資格講習会（全期）修了者
立教182年12月11日終講
直轄岡本善一
上下山野ちさと

◎教会長資格検定講習会修了者
立教182年12月17日終講
米府三代幸徳

ご報告

10月中旬に教会本部より「台風19号」に伴う災害の募金実施が発表されました。笠岡大教会に於きましても、募金の受付を10月21日の月次祭より始めました。その結果10月26日に2万2千円、11月の26日には17万円の募金を本部道友社に運ばせて頂く事が出来ました。真実の募金を有難うございました。なお大教会での募金期間は本年12月21日で終了いたしました。

笠岡大教会

訃報

西村聡子姉
瑞雲分教会前会長夫人
12月6日出直されました。
享年　74才

よりみち

部屋から茫（ぼう）として外の景色を眺めている。見ているようで何も見ていない。目も悪くそんなに見えない。何にも考えていない。チコちゃんならこういうだろう、〝ボーと生きてんじゃねえよ〟茫ーか、呆、拗、泡、崩、飽、暴、全て含んでいるなぁ。少なくとも望や奉、褒ではない。何を茫ーとしてたんだろか？　もう分からなくなっている。

家内からよく言われる。〝お父さん、惚けとんのと違う〟と言われる。惚けると惚れるは同じ文字。家内は僕にまだ惚れているのか？　そう思うのが惚けてる証拠か？

しかし仕事は茫ーとも惚けててもいけない。懸命に勤めるのみ。奥さん、皆様お許し下さい。

（ひ）